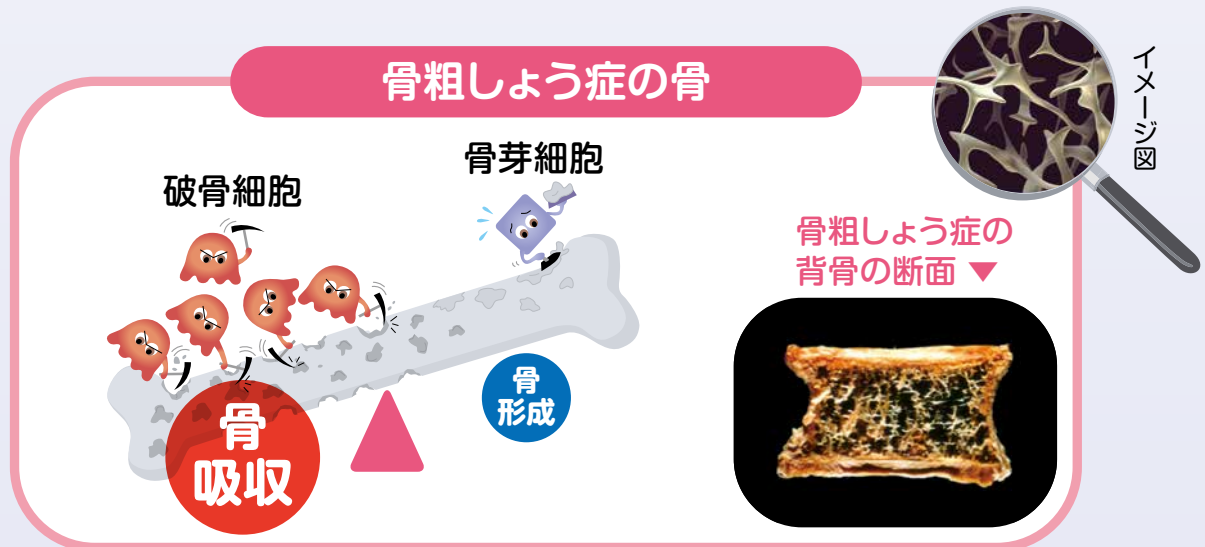


ボンビバ[®] 静注による 骨粗しょう症治療を受けられる 患者さんへ



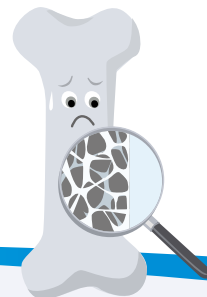
骨粗しょう症は、骨がもろくなる病気

骨 は「破骨細胞」が古くなった骨をこわす「骨吸収」と、「骨芽細胞」が新しい骨をつくる「骨形成」という「骨代謝」を繰り返しています。骨粗しょう症とは、この“つくる”と“こわす”のバランスが崩れ、“こわす”働きが“つくる”働きを上回って骨の中がスカスカになり、骨がもろくなる病気です。



写真提供：医療法人 宝美会 総合青山病院 井上 哲郎 先生

です。



！ 骨粗しょう症のおもな原因

骨粗しょう症は閉経後の女性に多くみられます。これは女性ホルモン（エストロゲン）が少なくなるためです。また、加齢も原因のひとつで、男性でも骨粗しょう症になることがあります。そのほか、生活習慣、薬、関節リウマチや糖尿病などの病気が原因のこともあります。



閉経



加齢



生活習慣



薬
など

骨粗しょう症が進むと、骨折しやすく

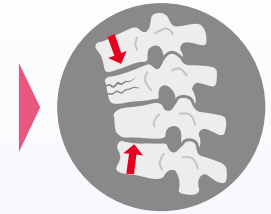


粗しょう症になると、背中や腰の骨（腰椎）がからだの重みなどによってつぶれる「圧迫骨折」がおこりやすくなります。

軽いうちは自覚症状がほとんどなく、患者さん自身も気づかないことが多いです。



健康な背骨



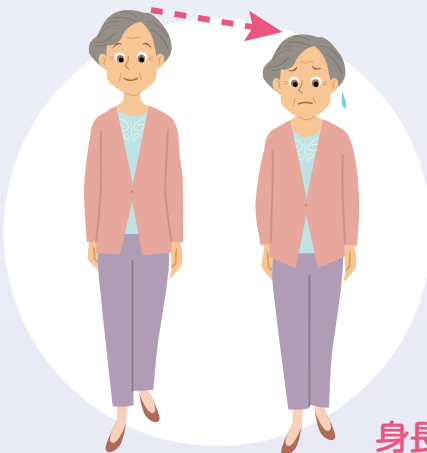
圧迫骨折した背骨



骨粗しょう症が疑われる症状



背中や腰が痛くなる



身長が縮む

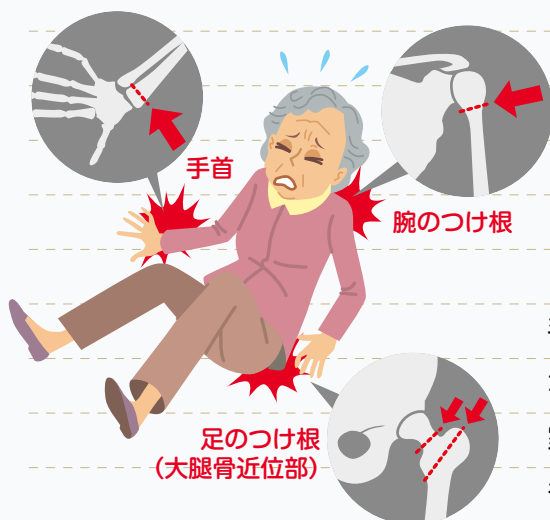


背中や腰が丸くなる

なります。



転倒すると…



骨 粗しょう症では、転倒による足のつけ根(大腿骨近位部)、腕のつけ根、手首の骨折もおこりやすくなります。家の中のちょっとした段差でも転倒の危険性があり、注意が必要です。



骨 折により日常生活が不便になるだけではなく、とくに大腿骨近位部を骨折すると、手術やリハビリテーションが必要になり、場合によっては要介護状態になることもあります。

骨粗しょう症対策には、生活習慣の

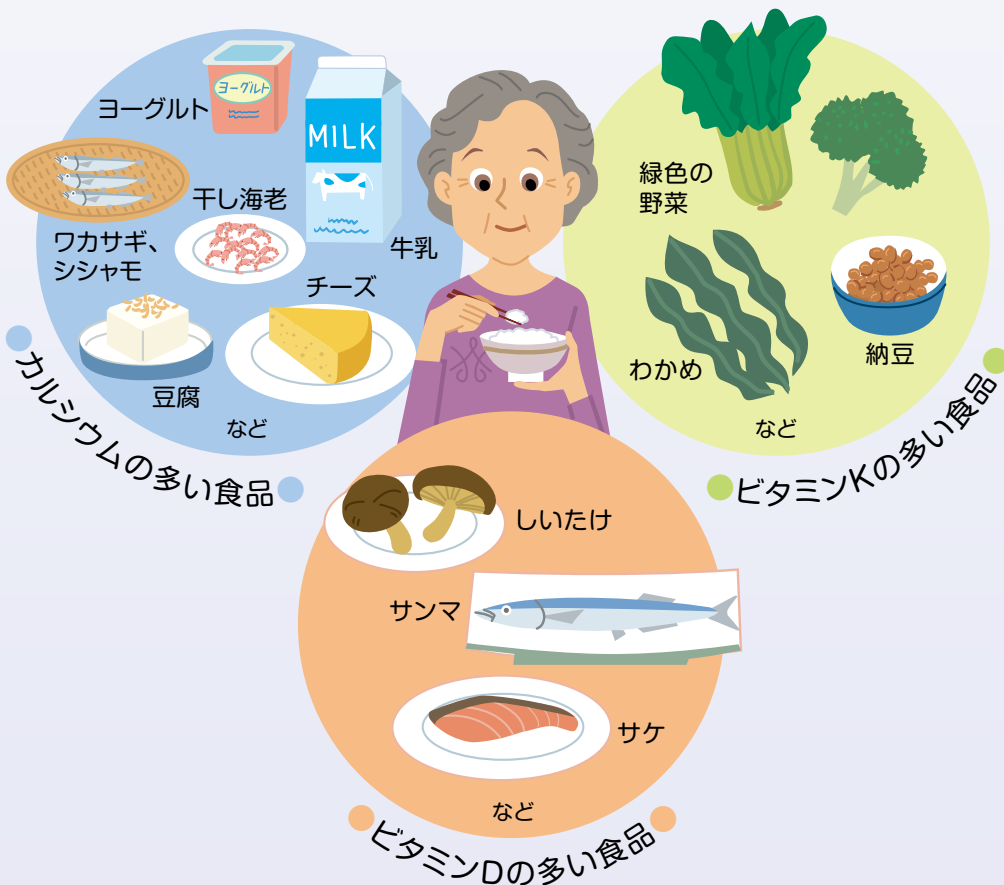
骨 粗しょう症は「骨の生活習慣病」ともいわれています。「運動不足」「偏食」「喫煙」「過度の飲酒」なども骨がもろくなることに関係しています。

ポイント

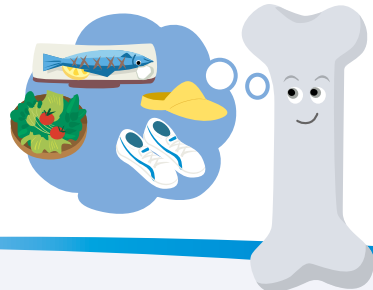
1

カルシウムやビタミンD、ビタミンKを多く含む食事

カルシウムが足りないと骨がもろくなるので、閉経後の女性は十分なカルシウムが必要です。ビタミンDはカルシウムの吸収を助け、ビタミンKは骨をつくる時に役立つので、これらの栄養素を多く含む食品を上手に組み合わせ、栄養バランスのよい食事をこころがけましょう。



改善も重要です。



お薬による治療とともに、食事や運動など日常生活に気をつけることも大切です。

ポイント 2

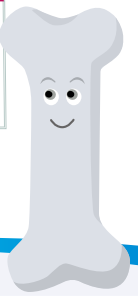
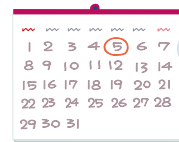
適度な運動と日光浴

適度な運動で“骨に体重をかける”ことで、骨にカルシウムが蓄えられやすくなります。また、背筋や下半身の筋力がアップし、バランス感覚もよくなって、転びにくくなります。

適度に日光を浴びることにより、からだの中でビタミンDがつくられ、腸管からのカルシウムの吸収が高まります。



- 骨粗しょう症の患者さんは骨折しやすいので、運動を始める前に医師に相談し、どのような運動が適しているか確認してください。
- 外出時の靴や服装に気をつける、室内の整理整頓や段差に配慮するなど、転倒を未然に防ぐための安全対策も重要です。



骨粗しょう症のお薬は 継続することが大切です。

骨 粗しょう症のお薬は、「骨吸収（骨をこわす働き）を抑える薬」、「骨形成（骨をつくる働き）を助ける薬」、「骨の材料の補充または骨の代謝を助ける薬」に大きく分けられます。

骨吸収を抑える薬



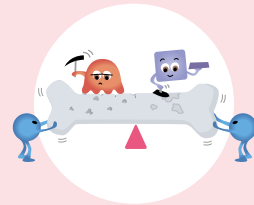
- ビスホスホネート系薬剤
- 選択的エストロゲン受容体モジュレーター (SERM) 薬剤
- 抗ランクルモノクローナル抗体薬剤

骨形成を助ける薬



- 副甲状腺ホルモン (PTH) 薬剤

骨の材料の補充 または骨の代謝を 助ける薬



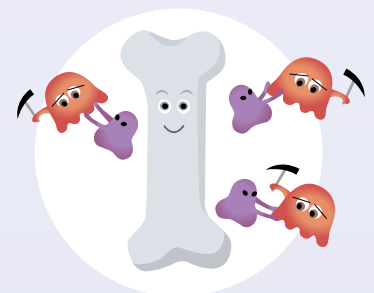
- 活性型ビタミンD₃ 薬剤
- カルシウム薬剤
- ビタミンK₂薬剤

骨吸収を抑え骨形成を助ける薬

- 抗スクレロスチンモノクローナル抗体薬剤

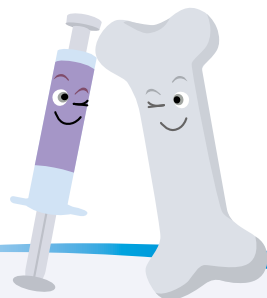
ボンビバ®静注 はビスホスホネート系薬剤のひとつで、月1回、医療機関で1mLの注射を受けることにより骨粗しょう症を治療するお薬です。

ビスホスホネート系薬剤は、骨をこわす『破骨細胞』の働きを抑えることにより骨吸収を防ぎ、骨量を増やす作用があります。



ビスホスホネート系薬剤

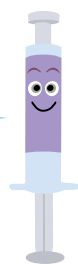
ボンビバ® 静注1mgシリンジ



ボンビバ静注による治療を3年間続けた結果、骨量が増え、腰の骨（腰椎）や足のつけ根（大腿骨近位部）の骨折の可能性が少なくなることが報告されています。

注射薬は、
お薬の成分が血液中に届き
効果を発揮します。

有効成分を直接
体内に届けます。

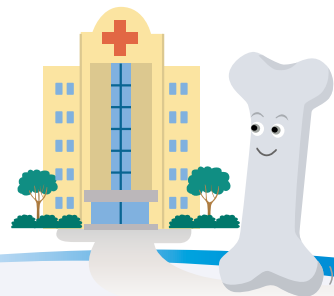


血中

ボンビバ静注は、
このようなメリットを考え、
開発されたお薬です。



ボンビバ®静注は、月1回 通院して注射するお薬です。

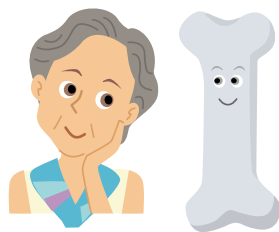


ボンビバ静注は月1回、医師や看護師に静脈注射をしてもらいます。
1回の注射は短時間で終わります。

骨粗しょう症の治療は継続することがとても重要です。
月に1回医療機関を受診し、きちんと治療を続けましょう。



注意していただきたいこと



● 急性期反応（インフルエンザ様症状）

急性期反応（インフルエンザ様症状）とは、主に、初めての注射後3日以内に現れ、7日以内に回復する一過性の症状です。この時期に、背中や筋肉、関節、骨などの痛み、頭痛、体のだるさなどを感じた場合は、ただちに主治医・看護師または薬剤師に連絡してください。

● 歯・あごの症状

あごの痛みや歯のゆるみ、歯ぐきの腫れなどの症状がみられた場合は、ただちに主治医・看護師または薬剤師に伝え、歯科医に連絡してください。

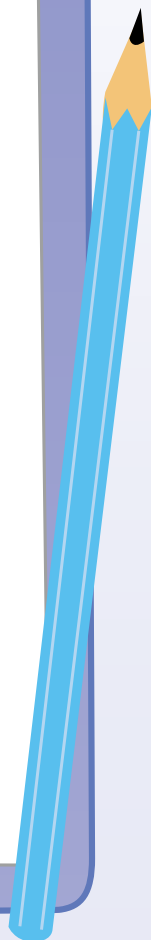


歯科受診の際には

- 抜歯などの歯の治療を受ける場合は、あらかじめ主治医・看護師または薬剤師に相談してください。
- 歯科医にボンビバの注射を受けていることを必ず伝えてください。

● 次の方は注射を受けることはできません。

本剤または、本剤と同じ系統の薬剤に対する過敏症のある方、低カルシウム血症の方、妊娠している方、妊娠している可能性のある方、授乳中の方





医療機関名



大正製薬株式会社